



報道関係者 各位

NPO法人 放送批評懇談会

発表！2025 年 11 月度ギャラクシー賞月間賞

放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、テレビ、ラジオの番組、関係者を顕彰する「ギャラクシー賞」。ことしで 63 年の歴史を誇ります。

ギャラクシー賞テレビ部門では、「ギャラクシー賞」活動の一環として、毎月、自主的に番組を推奨する「月間賞」を選定しております。今月の月間賞を別紙のとおり発表いたしますので、貴媒体でお取り扱いのほどお願い申し上げます。

ギャラクシー賞テレビ部門は、この日常視聴に基づく「月間賞」と、各社からの応募作品を併せて審査を重ね、毎年の受賞作を決定いたします。2026 年 6 月上旬開催予定の贈賞式にて、大賞をはじめとする各賞が決定、表彰されます。

今後の選考にもご注目いただければ幸いです。

●放送批評懇談会について：1963 年の発足以来、評論家、ジャーナリスト、マスコミ研究者などを会員に、各種の活動を展開しております。放送の専門誌・月刊「GALAC（ぎやらく）」の編集・発行、優れた番組・CM を顕彰する「ギャラクシー賞」の選考・運営、メディア界の動きを解説するセミナーやシンポジウムの開催などを行なっています。

●過去の受賞作をお探しの場合は「ギャラクシー賞データベース（<https://houkon.jp/galaxy-database/>）」をご活用ください（掲載内容：作品名、放送局・制作社名、制作者、出演者、受賞理由など）。

<お問い合わせ先> NPO法人 放送批評懇談会

MAIL : kondankai@houkon.jp HP : <https://www.houkon.jp/>



**2025 年 11 月度ギャラクシー賞月間賞****テレメンタリー2025「医療を運ぶ翼 ヘリ死亡事故から見た地域医療格差」****11 月 8 日放送 九州朝日放送**

2025 年 4 月に起きた九州壱岐沖での医療用ヘリ墜落事故。そのヘリが民間運営のものだったことを踏まえ、日本の医療用ヘリの厳しい実情を検証考察する。国費運営によるドクターヘリは全国網羅的な配置ではなく、地方病院などの自費運営等で補っているが、赤字覚悟の使命感に頼らざるを得ない現実。国の対応施策の不足を訴えた。

知的探求フロンティア タモリ・山中伸弥の!?「ヒトはなぜ音楽を愛するのか」**11 月 15 日放送 日本放送協会**

「音楽は生存のために直接役立たない」というダーウィンの言葉を切り口に「ヒトはなぜ音楽を愛するのか」を特集。さまざまな角度から音楽がヒトにとって重要であるばかりか、生存にとっても不可欠なものであることを浮き彫りにしていく。最先端の研究を幅広く綿密に取材し、音楽を通して世界の豊かさや人類の可能性を示していた。

E T V 特集「駅が語れば」**11 月 15 日放送 日本放送協会**

最北の無人駅、抜海駅が 2025 年 3 月に 100 年の歴史を終えた。人を運び続けた駅が見ていたのは、故郷に帰れなかった海軍兵、親の言いなりで嫁いできた女性、流れ着いた罪人、そして民営化の嵐など。100 年の営みから見た人間模様、解体を見届けた地元の様子が静かに描かれた。駅を演じた伊ッセー尾形の語りが絶妙。

ドキュメンタリー「解放区」「巨大基地の波紋 ～戦後 80 年 激変する安全保障～」**11 月 16 日放送 南日本放送**

かつて自然豊かな宝の島と言われていた種子島沖の馬毛島は、今や無人島。そこでは国が 1 兆円以上をかけた自衛隊の基地建設が進行中だ。陸・海・空の最新鋭の訓練、さらには米軍の空母艦載機の発着訓練等が計画されている。基地建設特需の影響、防衛の最前線に立つ新人隊員の思いなどを知り、台湾有事の懸念が問題化するなか不安が募る。

★詳細は月刊誌「GALAC」2026 年 2 月号に掲載します